

金山町街並み景観セミナー開催 陣内秀信法政大学教授講演

「イタリアの小さな町の底力、スローシティと山形県金山町」



講師の陣内秀信教授（右）。会場には町内建設業関係者など多くの方が参加していました。

5月10日、役場町民ホールを会場に、「金山町街並み景観セミナー」が開催されました。テレビ番組でもお馴染みの法政大学陣内秀信教授を講師に迎え、「イタリアの小さな町の底力、スローシティと山形県金山町」と題した講演を行いました。

講演の冒頭に陣内教授は、「いつか訪れたいと思っていた金山のようにやってくるのができ、願いが叶った。日本中探してもこんなに素材が良い町はない。空家や蔵を利用したり、至るところに水路や通路があったりと、技やセンスが金山にはある。それらの文化的景観を町の活性化に活かすべきだ。」と、金山の魅力を語ってくれました。

陣内教授の専門はイタリア建築史。「イタリアは、観光地として小さな町をうまく利用している。」とした上で「金山は文化的景観という側面から、イタリアと似ている部分がある。こ

の素晴らしい田園風景を利用した創意工夫のある町づくりこそが、過疎や人口減少等の問題の解決策を見出し、新たな道を切り開くのではないか。」と貴重なアドバイスをいただきました。

また、陣内教授は、現代のイタリアの特徴として、アグリツーリズムが進んでいると考え、今後、「農業×旅行」が日本の観光業でもキーワードになると推測していました。「金山の何でもない風景に価値がある。」との言葉のとおり、逆転の発想から生まれる新たな事業にも取り組む必要性がありそうです。

講演には、町内建設業関係者など約70名が参加。参加者の一人からは「街並みや景観をはじめとした金山特有の伝統を守り、継承していくことも、前に進むための進化のひとつであると学んだ。それらを活かして若者が定住できる町にしたい。」との前向きな意見が出されました。

金山大工職人、^{かな}鉋うす削り全国大会出場

5月14日～15日の2日間、岐阜県高山市で「第32回全国削ろう会」飛騨・高山大会が開催されました。この大会に新庄最上建設総合組合金山支部（渡部俊治支部長）から5人の大工職人の皆さんが出場しました。金山杉を持ち込み、^{かな}鉋で削る材の薄さを競う競技です。7月3日に町体育センターで「ミニ削ろう会」を開催するにあたり視察研修を兼ねての参加となりました。全国に金山杉と金山町をアピールした大会となりました。

